

伊勢志摩サミットの成功に向けて

三重県雇用経済部伊勢志摩サミット推進局



第3回住民懇話会



伊勢志摩サミット・ロゴマーク

目次

伊勢志摩サミットの成功に向けて

1	サミット	2
2	県民の皆様へ	3
3	三重県の取組	4
	(1) 開催支援	
	(2) おもてなし	
	(3) 明日へつなぐ	
	(4) 三重の発信	
4	サミット閉会后	9



伊勢志摩サミット
三重県民会議

(1) 伊勢志摩サミット



● サミットとは

- 世界経済問題について首脳間で政策協調を議論する場として、1975年から開始されています。その後、政治問題、地球規模の問題についても議論されるようになりました。

● 伊勢志摩サミット

- 5月26日(木)、27日(金)、志摩市賢島「志摩観光ホテル」で開催予定
- 国際メディアセンター(IMC)を県営サンアリーナ(伊勢市)に設置

● 参加国

- 日本、アメリカ、イギリス、フランス、ドイツ、イタリア、カナダ、7か国の首脳並びに欧州理事会議長及び欧州委員会委員長が参加。
- アウトリーチ会合・・・伊勢志摩サミットの際に、G7以外の国々の首脳及び国際機関の長を招待して開催される会合
 - アジア：ラオス、ベトナム、インドネシア、バングラデシュ、スリランカ、パプアニューギニア
 - アフリカ：チャド
 - 国際機関：国際連合、経済協力開発機構、アジア開発銀行、国際通貨基金、世界銀行



● 国際メディアセンター(IMC)

- 伊勢志摩サミット取材する報道関係者のための施設です。外務省が設置します。
- 国際メディアセンターの一角に、三重県情報館(仮称)が設置されます。
- 三重県営サンアリーナに設置し、サンアリーナの既存施設とサンアリーナ近くに建設されるアネックスで構成されます。
- IMCは、放送設備(マスターコントロールルーム、テレビ・ラジオ放送局用ブース、編集室等)を有する国際放送センター(IBC)に加えて、共用ワーキングスペース(約800席)やダイニングスペースが設置されます。



(出典:伊勢志摩サミット公式ホームページ)

<http://www.g7ise-shimasummit.go.jp/media/imc.html>

● アネックス 完成予想図



(国土交通省提供)



サミット開催に際して、来県される各国首脳等の移動に伴う高速道路や伊勢志摩地域の道路の混雑を緩和するため、「テロ対策三重パートナーシップ推進会議」内の「伊勢志摩サミット交通対策推進ワーキング」と連携して、三重県内各路線における交通総量抑制行動に取り組んでいます。

1 期間 平成28年5月25日(水)～28日(土)

2 内容

(1) 期間前「相互啓発の促進」

対策期間中における交通規制の実施、公共交通機関の利用促進について、組織内外における周知徹底、自主的な広報に努める。

(2) 期間中「交通総量抑制行動」

対策期間中の交通規制に伴う一般交通に対する影響を最小限にとどめるため、次のとおり交通総量抑制に取り組む。

- ア 不要不急の乗用車利用の自粛
- イ 通勤時等における公共交通機関利用の促進
- ウ 移動時の乗り合い乗車の促進
- エ 期間中における不要不急の会議、イベント等の自粛 など

伊勢志摩サミット
混雑緩和にご協力をお願いします

5月25日(水)～28日(土)

公共交通機関の利用
マイカー利用の自粛
事業用車両の運行調整



サミット期間は、賢島周辺の公共交通機関は一部運休または運航を変更する予定ですので、ご理解とご協力をお願いします。

1 期間 平成28年5月21日(土)始発～5月28日(土)7:00

※ ただし、各国首脳滞留日程によっては、28日(土)朝の運行再開時刻が後ろ倒しになる可能性があります。

2 運休及び運航の変更内容

(1) 鉄道・路線バス

- ・ 近鉄(志摩線)の鵜方駅～賢島駅間の運休 (※鵜方駅以北は通常運行)
- ・ 三重交通バス(59系統)の鵜方駅～賢島駅間の運休
- ・ 伊勢志摩近鉄リゾートホテル直行バス「パールシャトル」の運休

※ 鵜方駅～志摩神明駅～賢島駅の間をシャトルバスが運行されますので、ご利用ください。

※ 賢島には、外務省発行の識別証をお持ちの方しか入ることができません。また、賢島の手前に設置されるセキュリティ・チェックポイントにて保安検査を受けていただくこととなります。

(2) あご湾定期船

ア 賢島～浜島航路・・・御座から賢島間の運休 (※浜島～御座間は通常運航)

イ 賢島～和具航路

- ・ 賢島港に代わり、志摩地中海村のマリーナが発着場所
- ・ 志摩地中海村からは鵜方駅までシャトルバスを運行 (※間崎島～和具間は通常運航)

期間中運行されるシャトルバスの時刻表は、後日、駅や定期船乗り場への掲示や三重県民会議ホームページに掲載しますので、御確認下さい。



(1) 取組の全体像

「伊勢志摩サミット」の成功に向けて

3つの成功要因

- サミットを**安全・安心に開催**
- サミットに**全県的に取り組む**
- サミット開催を一過性のものとせず、**次世代にサミットの資産を残す**

伊勢志摩・三重県の知名度向上や国際観光地としてのレベルアップのみならず、**地域の総合力向上**につなげる



「伊勢志摩サミット」取組の基本方針（4本柱）

開催支援

～万全の態勢で主要国首脳会議を成功させる～

おもてなし

～歴史に育まれたあたたかい心で、世界からのお客様の記憶に残る「おもてなし」を行う～

明日へつなぐ

～子どもたちをはじめ県民が主役となって世界との交流を進め、三重の希望を明日へつなぐ～

三重の発信

～美しい自然、豊かな文化・伝統など、わたしたちが誇りに思う三重を発信する～

伊勢志摩サミットの全体像

主要国首脳会議のほか配偶者プログラムやジュニアサミットなど国が行う公式プログラムのみでなく、伊勢志摩サミット三重県民会議が行う事業や、県、市町が独自に実施する関連事業も含めたものを、伊勢志摩サミットの全体像と捉え、サミット成功に向けて取り組む

(2) 4つの柱に基づく事業展開



県民会議を中心として、県内市町や関係団体等と連携し、「開催支援」に取り組むとともに、地域の総合力の向上につなげるため、「おもてなし」、「明日へつなぐ」、「三重の発信」を柱に、サミット開催に向けた全県的な取組を展開している。

開催支援

万全の態勢で主要国首脳会議を成功させる

- ・配偶者プログラムへの協力
- ・公式行事に伴う歓迎交流
- ・住民懇話会
- ・宿泊予約センター
- ・弁当供給体制の整備
- ・プレス来県時の移動支援



第2回住民懇話会

ほか

おもてなし

世界からのお客様の記憶に残る「おもてなし」を行う

- ・花いっぱい作戦
- ・クリーンアップ作戦
- ・サミットフォーラム
- ・カウントダウンボード

ほか



カウントダウンボード除幕式 (H28.1.8) (於:外務省)

4つの柱



明日へつなぐ

子どもたちをはじめ世界との交流を進め、三重の希望を明日へつなぐ

- ・ジュニア・サミット
- ・国際理解・国際交流プログラム
- ・伊勢志摩サミット記念館(仮称)
- ・大学生・留学生との交流事業

ほか



ジュニア・サミット日本代表の県内在住高校生4名

三重の発信

各種イベント等、あらゆる機会を通じた情報発信

- ・三重県情報館(仮称)
- ・海外プレスツアー
- ・PR動画
- ・ホームページ
- ・シンボルマークの制定
- ・ポスター等によるPR

ほか



海外プレスツアー(H28.2.16) (於:有限会社佐藤養殖場)

(1) ドローンの飛行規制 ～賢島周辺地域等での飛行禁止～



◆ ドローンやラジコンヘリ等、小型無人機の飛行が県条例で規制されています

「伊勢志摩サミット開催時の対象地域及び対象施設周辺地域の上空における小型無人機の飛行の禁止に関する条例」が平成28年1月に施行されました。

この条例により、ドローンやラジコンヘリコプター、ラジコン飛行機等の小型無人機の飛行が規制されています。

飛行規制期間に飛行規制場所で許可なく小型無人機を飛行させた場合は、罰則が科せられますので、ご注意ください。



- **規制期間** 平成28年3月27日から同年5月28日までの間
- **規制場所**
 - (1) 志摩市賢島内の円山公園内の四等三角点を中心として1,500mの半径を有する円内の地域(海域を含む。)
 - (2) 知事の指定する対象施設、当該対象施設の敷地又は区域及びその周囲300mの地域



(参考情報) 伊勢志摩サミット会場上空における飛行制限区域等の設定
国土交通省が、5月25日から29日までの間、飛行制限区域を設定します。



● 宿泊予約センター

- ・サミット開催時に集中的に来県する関係者(各国代表団、報道、警備等)に対し、宿泊先となるホテル等を安定的かつ効率的に確保し、宿泊に関するサービスを一元的に提供
- ・株式会社JTB中部、近畿日本ツーリスト株式会社、株式会社日本旅行の3社による共同事業体で構成

● 弁当供給体制

サミットの開催に際して、関係者(警備、消防、医療、現地スタッフ等)に対し、安全・安心な食事を大量に継続して供給するための体制



1 大規模需要への対応について

伊勢志摩地域を中心に県内各地に配置される警備関係者等からの大規模な弁当需要に対応。

- ・志摩市 : (株)ローソンを代表とする共同事業体
- ・志摩市以外: (株)セブンイレブン・ジャパンを代表とする共同事業体

2 小規模需要への対応について

小規模な弁当需要に対しては、地元の弁当製造事業者による供給が行えるよう、両者のマッチングを促進。

⇒ 志摩市内の弁当製造事業者による「志摩市弁当協力会」が海上保安庁職員に対して弁当の供給をすることが決まりました。





■ プレス来県時の移動支援

サミットの取材のため海外から来県する報道関係者が、中部国際空港・宿泊ホテル間の公共交通機関による移動にあたって感じる負担や不便を軽減します。

- ・取組内容 津なぎさまちと海外プレスの宿泊先ホテルを結ぶシャトルバス運行、及び津エアポートラインの増船を予定



■ 外国語案内ボランティア

三重県を訪れる外国人報道関係者の方々を、おもてなしの心で歓迎し、円滑な取材・報道活動を行っていただくため、国際メディアセンターや県内主要駅に設置する予定のインフォメーションセンター等で、外国語による交通や観光等の案内及び三重県の情報発信等を行います。



イメージ

・活動内容

期 間： 平成28年5月20日～5月28日(予定)

人 数： 300名(1003人[内 伊勢市42人、鳥羽市2人、志摩市8人、南伊勢町1人]が応募)

場 所： 国際メディアセンター、中部国際空港、名古屋駅、津駅、津なぎさまち、松阪駅、

伊勢市駅、近鉄宇治山田駅、近鉄五十鈴川駅、鳥羽駅、近鉄鶴方駅(全て予定)

○主要駅等で、外国語による交通や観光等の案内及び三重県の情報発信を行います。



三重県を訪れる方々に、県民の歓迎の意を表現するとともに、一人でも多くの県民が来訪者歓迎に関わることにより、サミットに向けた機運醸成や参加意識の向上を図るため、県民参加型の「おもてなし大作戦」を展開しています。

平成28年2月14日(日)

「おもてなし大作戦」キックオフ



クリーンアップ作戦

きれいな街でおもてなしする活動



志摩市内での清掃活動
(H28.2.14 志摩市)

花いっぱい作戦

おもてなしの心と美しい花々で歓迎する活動



「花いっぱい作戦」寄せ植え体験講座
(H28.4.2 伊勢市)



壁面パネルへの花の飾り付け
(H28.4.9 鳥羽市)

サミット開催直前の平成28年5月下旬までの間、各地域、自治会、職場などでさまざまな取り組みが行われます。

(1) ジュニア・サミット



「2016年ジュニア・サミット in 三重」(主会場:桑名市 ナガシマリゾート)

G7を代表する15歳～18歳の中高生等の各国4人ずつの計28人が参加し、サミットで取り上げられる国際問題について話し合いまとめた、「桑名ジュニア・コミュニケ」(声明)を発表。安倍首相に提出しました。



1日目 開会式



G7各国4人ずつの計28人が参加

《日本代表参加者》 三重県内の高校生4名



鈴木知事 表敬訪問(H28・2・27)

スケジュール

- 1日目(4/22・金)
開会式、討議
- 2日目(4/23・土)
討議、四日市市視察
- 3日目(4/24・日)
討議会議
- 4日目(4/25・月)
県内分散型体験・交流行事
- 5日目(4/26・火)
三重県送別行事、東京移動

県内分散型体験・交流行事訪問

4つのグループに分かれ、県内分散型体験・交流行事で県内各所を訪問。



Dコースは、伊勢神宮やいつきのみや歴史体験館(明和町)を訪問

三重県最終日 成果発表



「桑名ジュニア・コミュニケ」(声明)を発表



(県民会議事業)

国際理解・国際交流プログラム

- 内 容: ・参加国の生活を知ろう
・参加国の料理を作ってみよう、
・親子で参加国の遊びを体験してみよう



参加国の生活を知ろう(県立鳥羽高校)

(外務省事業)

「イチからわかる！サミット塾」

対 象: 三重県内の小中高等学校

内 容: サミットや外交をわかりやすく説明
(外務省の仕事とは、伊勢志摩サミットとは)

実施回数: 三重県内6回実施

・ 伊勢志摩地域での実施個所

進修小学校、鶺方小学校、南島西小学校

サミット開催を契機として、県民の皆様にも、サミット参加国について理解や交流を深めていただくため、楽しみながら学べるプログラムを実施。

平成28年度は小・中・高等学校、特別支援学校を対象に募集中。

実施回数: 91回実施 (全90回分の募集に対し申込196回分)

・ 伊勢志摩地域での実施個所

幼・保 しまの杜保育園、下之郷保育所、大王幼稚園
立神社幼稚園

小学校 磯部小学校、鶺方小学校、南島西小学校

中学校 城田中学校、港中学校、南島中学校

高 校 伊勢学園高校、宇治山田商業高校、鳥羽高校

次世代を担う子ども達に、外交についての関心を高めていただくとともに、伊勢志摩サミットを世代を超えて盛り上げるため、若手の外務省職員を派遣し、サミットの説明もしながら、世界のことから身近なことまでわかりやすい授業を行う。



南島西小学校(南伊勢町) 写真: 外務省ホームページ

(1) 三重県情報館(仮称)

■ 三重県情報館(仮称)とは

伊勢志摩サミットの際に報道関係者の拠点として政府が設置する国際メディアセンターの広報スペースの一部に、国内外から来県する数千人の報道関係者等に向けて、三重の宝や誇り、三重が持つ日本の素晴らしさを発信するための拠点として、三重県情報館(仮称)を設置する。

【期間】平成28年5月25日から5月28日(北海道洞爺湖サミットの事例を参考に想定)

【場所】三重県営サンアリーナ(伊勢市)に隣接する仮設建物内に設置

■ 基本コンセプト

「伝統と革新～“和”の精神～」

三重の歴史、多様で豊かな文化、自然、食、産業等における「**伝統と革新**」を「**“和”の精神**」という切り口で捉え、「**静と動**」の織り成す三重の多様な魅力を発信する。

■ 展示コンセプト

「**伝統**」を守りながらも「**革新**」を積み重ねることで進化してきた「**三重**」の「**姿**」「**技**」「**食**」—繰り返すことで、いつまでも瑞々しくて若々しい「**常若**」の思想—

「**視覚を刺激**」して国内外の報道関係者に「**三重**」を「**感じ**」「**知って**」もらう



(2) マークやポスターの展開



国のロゴマーク



中央の赤い丸は日の丸を、
周囲の桜の花びらはサミット
に参加する7カ国を表し、背
景には伊勢志摩の美しい海
が表現されています。

県民会議のシンボルマーク



伊勢志摩サミット
三重県民会議

手を繋ぐ2人で、次世代へのつながりを表
現しています。
波線は、世界の人々と三重県の人々のつ
ながりのタスキを表現しています。
サミットで培われたあたたかなつながりを次
世代へ受け継いでいこうという決意を込め
ています。

県民会議ポスター

第1弾



伊勢志摩
2016年主要国首脳会議 三重県で開幕！
サミット2016

第2弾

伊勢志摩サミット三重県民会議の
シンボルマークが決定しました。



伊勢志摩サミット
三重県民会議

2016.5.26 - 27日

第3弾



伊勢志摩サミット

ISE-SHIMA SUMMIT

2016.5.26 - 27日

第4弾



伊勢志摩サミット

ISE-SHIMA SUMMIT

2016年 5月26-27日 開催

第5弾

「明日へつなぐ」を
テーマに、作成予定。



海外のメディアに三重県を取材する機会を提供し、三重県の魅力を世界へ発信する。三重県の認知度を高め、ブランドイメージの確立と浸透を図るとともに、開催後のインバウンドをはじめとする観光客の増加や県産品の販売増につなげる。

- ・ 県民会議主催のプレスツアー(3回実施予定)
- ・ 外務省等主催のプレスツアー(複数回)
- ・ 海外メディア等へのプロモーション事業
- ・ 海外著名人招へいプレスツアーの実施

これまでに17回実施
世界**31**ヶ国のプレスが取材

● 伊勢志摩地域の取材先(一例)

伊勢神宮、せんぐう館、おかげ横丁、海の博物館、
答志島、海女小屋、伊勢まだい、的矢かき、干物など



(1) ポストサミットに向けて



三重県における「ポストサミット」を、《サミットの「レガシー」を三重の未来に生かすこと》と定義

サミットの「レガシー」

サミットの開催により
地域にもたらされる
有形無形の好影響

具体的な取組

① 知名度等の向上

・「日本人の心のふるさと」三重・伊勢志摩の知名度の向上や評価・関心の高まり 等

② 会議自体の成果

・宣言、方針、共同声明等や、それらに基づく計画、取組 等

③ 地域の総合力の向上

・県民や地域の一体感の醸成
・郷土に対する愛着や誇りの高まり 等

① 人と事業を呼びこむ

知名度等の向上を最大限に生かし、国内外の人びとと事業を呼びこむ取組

② 成果を発展させる

サミットそのものの成果を引き継ぎ発展させる取組

③ 次世代に継承する

サミットを通じて高まった地域の総合力を、次世代の育成や地域の魅力向上につなげる取組

三重とこわか国体・全国障害者スポーツ大会三重大会
全国菓子大博覧会・三重(平成29)
伊勢志摩国立公園指定70周年(平成28)

持続的に発展する三重の未来へ

伊勢志摩サミットの開催



サミットの開催成果を確かな資産として「明日へつなぐ」ため、県外大学生や留学生が三重に集い、県内大学生や留学生と共に、サミットに関係するテーマ等について討議を行う大学生版のサミットを開催し、サミット開催地・三重県が次世代グローバル人材育成の地となることを目指す。

※ 平成29年度以降も継続実施を検討

※ 以下は予定です。

1 時期 …平成28年8月末～9月当初 (※3泊4日程度を想定)

2 開催場所…伊勢市及び南伊勢町

3 取組内容

- (1) サミットのテーマ等に関する討議
- (2) 討議に資する現場体験・学習
- (3) 討議成果の発表 など

4 参加者

- (1) 首都圏を中心とする県外大学生、大学院生、留学生
- (2) 県内大学生、大学院生、留学生

5 参加人数…100人程度



● 伊勢志摩サミット記念館(仮称)

- ・ サミットの開催を記念し、サミットの様子や使用された調度品・県産材等の紹介を行うなどにより、伊勢志摩サミットの足跡を後世に残すものとして、伊勢志摩サミット記念館(仮称)を設置する。
- ・ 「明日へつなぐ」事業として、子どもたちの学習機会の場となるような展示や、動画等の要素も勘案した記念館とする。

● サミット記録誌

- ・ 伊勢志摩サミットの記憶を後世に引き継ぐため、北海道洞爺湖サミットや九州・沖縄サミットの事例を参考に、サミットの準備段階から開催経過、県民会議や市町の取組などを編纂する。
- ・ 三重県にゆかりのある民間企業、団体、個人の皆様から多くの協賛・応援・寄附をいただいたこと等も踏まえ、「オール三重」でサミットの開催に取り組んだ足跡を「記念誌」としての意味合いを備えたものとして、記録誌に残していく。